

GF ジェンダーフォーラム 通信 GENDER FORUM PRESS 女とは？男とは？考えるマガジン

和光大学

ジェンダーフォーラム 〒195-8585 東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース(G112) TEL 044-989-7777 内線4112

EXHIBITION

現代社会学科主催・シンポジウムと企画展示「女性学の挑戦」

女性学の誕生から現在まで

ジェンダーフォーラムも企画展示で協力参加しました。

2010年11月24日(水)から12月3日(金)にかけて、和光大学附属梅根記念図書・情報館梅根記念室で、企画展示「女性学の挑戦—〈女らしさ〉の神話を超えて」を開催しました。多くの在学生や教職員の方においでいただき、また現代社会学科による同タイトルのシンポジウム「女性学の挑戦—和光大学35年の経験から」が開催された11月27日(土)には、卒業生も含めて外部の方が多数見にきてくださいました。

今回の展示は、日本で最初に女性学講座を開設した和光大学の35年間の経験をふり返ることをつうじて、女性学のあゆみを検証することを目指しました。展示の構成は、「0—イントロダクション」「1—ウーマン・リブの波」「2—女性学誕生の時代」「3—和光大学における〈女性学〉のあゆみ」「4—和光大学におけるジェンダー組織」「5—変わった？ 変わらない？ 女性の現在」からなっています。女性学が日本で誕生した背景や、時代のうねりのなかで和光大学の女性学講座がどのように発展してきたのか、男女格差は現在どうなっているのか、などなど。1970年代当時の空気を伝え



▲梅根記念室には当時のビラや雑誌、書籍なども陳列された。

る写真やビラ、雑誌、新聞記事、年表、統計データ、女性学の提唱者である井上先生自身による回想をまじえた解説などによってわかるようになっています。なかには、和光で女性学を学んだ卒業生からのメッセージや、ジェンダーに関連した卒業論文題目リスト(抜粋)もありました。

このように、時代状況とのかかわりで和光大学の学問的・教育的取り組みの歴史をふりかえる作業は、とても貴重なものだと思います。来場者から寄せられた以下のような感想からも、そのことがうかがえます。

「〈女性学〉のひとつことではいいつくせない多様な思いがあふれている学問だと思いました。」

「今あたりまえにあるかのように女性学関連の授業を受けていますが、井上先生をはじめとする様々な方がたの功績があったから今があるのだなぁと思いました。」

「和光大学、〈女性学〉講義や取り組みの歴史がはじめてしっかりと認識できました。」

企画スタッフの一人として、今回の展示とシンポジウムが、ジェンダーに関わる社会問題と向き合う人びとに何らかのヒントや励ましにつながれば、と願ってやみません。

(米田幸弘・現代社会学科)



▲J-301 教室で開かれたシンポジウム

〈女性学の挑戦—和光大学 35 年の経験から〉

左から 道場親信・井上輝子・阿部裕子・諸橋泰樹・千田有紀の各氏

学びのためのソコヂカラ —和光大学生のための〈生活力〉育成プログラム

2010年度重点充実教育予算を受け、10回のワークショップを開催しました。

ジェンダーフォーラムでは、2010年度「和光大学生のための〈生活力〉育成プログラム」と題する事業を計画し、本学の重点充実教育予算の交付を受けて10回のワークショップを開催しました。各ワークショップの当日のようすなどは、『GF通信』の16号および本号に報告の記事が掲載されていますので、ぜひご一読ください。

ここでは、ジェンダーフォーラムが〈生活力〉に着目し、それを学生の皆さんに見つめ直してもらうプログラムを構想するにいたった背景や理由を説明したいと思います。

ジェンダーフォーラムでは、大学における学習活動の土台となるいくつかの能力・スキルを学生の皆さんにしっかりと身につけてもらい、そしてそれらをよりいっそう高めたいと考えました。〈生活力〉とは、そういった能力・スキルを総称する概念として使用したことばです。私たちは、今回のプログラムにおいて、具体的な〈生活力〉として、①食にかかわる生活力、②おカネにかかわる生活力、③尊重しあえるパートナーシップにかかわる生活力、④自分を守る生活力という4つにターゲットを絞り込みました。

もちろん、コミュニケーションのチカラや、生活上・職業上・職業上の目標をみずから設定するチカラ—目標設定力とでも呼んだらよいでしょうか—など、〈生活力〉と呼ぶにふさわしい能力やスキルは他にも考えられます。そういった〈生活力〉についても、皆さんにはぜひ、能力向上、スキル・アップをはかっていってもらいたいと思うのですが、私たちは、ジェンダーフォーラムとして、上記4つのチカラをとくにとりあげることにしました。

それは、これらのチカラが、従来は家庭生活のなかで、家族関係を通じて培われてきたものだからです。つまり、これら4つの〈生活力〉は、伝統的な日本社会において、性別役割分業を通じて獲得されてきました。したがって、そ

れらを学生の皆さんに見つめ直してもらうためには、ジェンダーにかかわる催しを数多く実施してきたジェンダーフォーラムこそが適役ではないかと考えたのです。

ご承知のとおり、現代の日本社会における社会構造の流動化や社会意識の変化によって、家庭内のロール・モデルはいちじるしく多様化・複合化してきました。このような状況のもと、学業と社会性は大学で学び、生活に関わる種々の能力は家庭で身につけるという分業体制が機能しなくなっているようにも感じられます。

私たちは、「家庭料理は母親の仕事」、「女性の就業は腰掛け程度」といった従来の価値観を相対化し、そのうえでさらに、ジェンダーとは切り離されたかたちで、食生活の充実や円満な人間関係の構築、節度のある異性との交際とはどのようなもののかなどを参加学生各人がみずから主体的に考えていくかたちでワークショップを実施したいと考えたのでした。

つまり、女性学・フェミニズム・社会学などジェンダーにかかわる諸ディシプリンの成果を踏まえつつ、そのうえで学生みずからが、ジェンダーという制約から自由に、身につけるべき生活力をひとつひとつ拾いあげていく作業を行ってほしい—このことこそ、ジェンダーフォーラムが〈生活力〉を鍛え直そうと思いついた理由なのです。

今回のプログラムでは、①食にかかわる生活力：1回、②おカネにかかわる生活力：2回、③尊重しあえるパートナーシップにかかわる生活力：2回、④自分を守る生活力：5回、合計で11回のワークショップを開催することができ、毎回、数多くの皆さんが参加してくれました。ワークショップの内容についても、当日のアンケートでは、好意的に評価してくれている回答が多く見られました。

ただし、ジェンダーフォーラムの事業にこれからも多くの皆さんにかかわってもらうためには、プログラムの周知の方法や、各ワークショップの開催日時等の告知手段について、さらに検討していく必要があるようにも感じています。私たちジェンダーフォーラムの今後の課題とさせていただきます。

ジェンダーフォーラムでは、ワークショップ開催後も発展的に学習をしてもらうため、参加者に学習教材を郵送するなど、〈生活力〉を定着させるための工夫を試みています。

ワークショップに参加した皆さんは、ジェンダーフリー

専門的知識

基礎学力

社会性

円滑な人間関係を築く意思と能力

それらの基底となるいくつかの能力＝〈生活力〉

▲学生生活の能力・スキル

スペースを再訪し、〈生活力〉について、スタッフ・GF担当者とともにふたたび考える機会をもってみてはいかがでしょうか。そして、今回のプログラムに参加することができなかった皆さんも、ぜひジェンダーフリースペースに来室し、和光大学での勉強、シューカツ、そしてその後の社会生活にとって土台となるチカラ、〈生活力〉について、話し合ってみませんか。（杉本昌昭・経営メディア学科）

GF WORKSHOP

和光大生のための〈生活力〉育成プログラム

いま、お産と子育ては？

現代社会学科専門科目とタイアップして、
二つの講演会を開催。

尊重しあえるパートナーシップを育てるために、ジェンダーフォーラムではこれまで、デートDV関連のワークショップなどを開催してきましたが、今年度はお産と子育ての問題に焦点を当て、現代社会学科の専門科目「現代社会とジェンダー」とタイアップして講演会を開催しました。

お産も子育ても、多くの学生たちが今後経験する人生の大イベントであり、男女がパートナーシップを発揮して取り組むべきイベントでもあります。日ごろお産に立ち会う機会がほとんどなく、また育児支援の制度について周知されていない現状では、学生時代にお産や育児支援制度について学ぶことは、将来の備えとして重要だと考えたからです。

まずお産については10月5日（火）に、マタニティ・コーデ

ィネーターのきくちさかえさんによる講演会「自然出産の持続可能性」を開催しました。1950年代後半ごろから、出産の場が自宅から施設に移行したが、それにとまって、「出産身体」はしだいに施設に囲い込まれ、医療に管理されるようになった。これに対して、出産する女性が、患者として「産ませてもらう」のではなく、当事者として主体的に出産にかかわる「自然出産運動」が開始される。1970年代後半の「ラマーズ法」、80年代に開発された「水中出産」や「アクティブ・バース」運動などがそれである。2000年以降になると、産科医療の危機が叫ばれる一方で、豪華な設備とサービスを提供する産科医療施設も登場し、お産にかかわるサービス産業の側面が強調されているという。

写真家でもあるきくちさんの豊富なスライド写真を使ってのお話に、学生たちは興味深く耳を傾けて、「産まなければならぬ時代から、産ませてもらう時代、そして自ら選択し、自分らしく産む時代になったということがよくわかった」等の感想が寄せられました。

続いて10月26日（火）には、東洋大学社会学部講師の野城尚代さんから「育児休業制度とは」と題する講演をいただきました。育児休業法の成立、育児・介護休業法の成立と改正の歴史を概説した後、現行育児休業の具体的内容、ならびに取得の状況について詳しく説明していただきました。育児休業という言葉聞いたことはあるが詳しい内容は初めて知ったという学生が多く、大いに参考になったようです。また男性の育児休業取得率の低さに驚いたり、取得率が低い原因を考え、企業内文化やジェンダー規範の問題に気づいたり、休業制度



▲きくちさかえさん・2010年10月5日・H404教室



▲野城尚代さん・2010年10月26日・H404教室

を利用しやすい制度に変えるべきだとの声も聞かれました。

お産や子育ては、女子学生のみならず、男子学生にとっても他人事ではなく重要なことだとの認識が定着した点で、2つの講演は有意義だったと思われます。

(井上輝子・現代社会学科)

CF WORKSHOP

和光大生のための〈生活力〉育成プログラム

金融教育ワークショップ

一身につけるべき、おカネに関するリテラシー

「和光大学生のための〈生活力〉育成プログラム」の一環として、ジェンダーフォーラムでは、2010年12月に2回の金融教育ワークショップを開催しました。

金融教育ということば、皆さんは耳にしたことがあるでしょうか。そもそもは2002年、金融庁に設置されている金融審議会が文部科学省に対し、学校教育の現場で金融に関する学習活動をよりいっそう充実させるように要請したことから始まります。これを受け、政府は2005年を「金融教育元年」と位置づけ、その後、さまざまな施策が展開されていくことになりました。

金融教育とは、たんに貯蓄を奨励するだけの儉約思想を教え広めることではありません。生涯にわたる収入と支出をきちんと見極め、必要な支出を可能にするために、どのように貯蓄をしていけばよいのか計画をたてる非常にアク

ティブな能力を培うことが目標なのです。

ジェンダーフォーラムでは、まず12月3日(金)、経済学科の徳永潤二先生の担当科目「貨幣金融論B」と合同で、全国銀行協会企画部広報室長の渡邊俊之氏に「ローン・クレ

ジットを利用する際の留意点」と題する講演をお願いし、その後、同氏と参加者による質疑応答という構成でワークショップを開催しました。

渡邊氏のお話は、結婚や子育てにかかるおカネ、住まいを購入するための資金調達、老後に必要な蓄えの総額などについて丁寧に解説してくださるものでした。大学生の皆さんにとってまだ現実感が乏しい未来の出来事への備えがテーマですから、集中して聞いてくれるのか心配だったのですが、講演の終了後、参加者が熱心に質問を重ねている姿を見ると、学生の皆さんが実はこういった情報や知識を強く欲しているのだということを再認識した次第です。

また、12月14日(火)には、「日本経済のこれからと私たちの暮らし・おカネ」と題するワークショップを開催しました。徳永先生のゼミナールの皆さんに、「最近の円高が示すもの—日本経済は『独り負け』からいかに脱するか」と題する研究報告をお願いし、同じく経済学科の加藤巖先生のゼミナールの皆さんには、「未来の超少子高齢化社会に求められるもの」というテーマで発表をしてもらいました。その後、金融教育の領域で活発に活動されている東京富士大学の松田岳先生による「人生設計と資金計画—金融リテラシーの必要性」と題した講演を聞き、最後に質疑応答を行いました。

このワークショップでは、一個人の生涯にわたる資金計画立案能力の確立という金融教育の目標を達成するためには、現在の日本経済のおかれている状況などにも目配りをしつつ、より幅広い文脈のなかで、松田先生の論旨である「金融リテラシー」の修得に向けた努力が必要であるとの結論が導かれました。と書くと、しかつめらしい議論に終始したかと思われるかもしれませんが、3先生の絶妙な応答や司会・進行によって、参加者は和気あいあいとした雰囲気の中、長時間におよぶワークショップを楽しむことができました。

二つのワークショップの資料はジェンダーフリースペースに用意してありますので、関心のある皆さんはぜひ来室し、皆さん自身のおカネのこと、そしてこれからのことを考えてみてください。(杉本昌昭・経営メディア学科)



▲全国銀行協会 渡邊俊之氏



▲ワークショップに参加した学生と前列中央左から 徳永潤二先生・松田岳先生・加藤巖先生

和光大生のための〈生活力〉育成プログラム・護身術講座全5回

関根先生流「護身術」を聞く

和光大空手道部の協力で「護身術講座全5回」を開催

ジェンダーフォーラムでは、昨年10月から12月にかけて本学講師の関根秀樹先生と、先生が顧問をされている空手道部の方がたの全面的な協力を得て「和光大生のための護身術講座」を行ないました。指導された関根先生に護身術にまつわる話をお聞きしました。

——5回にわたって行なわれた「護身術講座」のねらいを教えてください。

関根秀樹：以前どこかで護身術のワークショップを受けた学生がいて、どんなことを習ったのか見せてもらったら、ぜんぜんできてなくて、これでは危ないと思った。一、二回そういう講座を受けたからって、「護身術習ったから大丈夫だ」なんて思ったら逆にすごく危険です。

そこで今回はもうちょっと地道に、きちんと系統立ててやったほうがいい、と判断しました。そのうえで「少しくらいやっても役に立ちませんよ」ということを、きちんと自覚することが大事です。

男性と女性では体力にも体格にも大きな差があります。一ヶ月や二ヶ月練習したところで、「撃退する」というのはまず不可能で、そこをしっかりと認識していないとすごく危ないのです。

——護身術という言葉を通信せず、技術以前に正しい〈心がまえ〉を持つことが第一だということですね。

関根：そうですね。まずは、危険に気付いたときにびっくりしないこと。驚いて身体が固まっちゃうのがいちばん危険です。もちろん逃げるのが最優先ですが、その前に危ないところには近づかない。危ないなと思ったら、なるべくその場を離れること。逃げる〈きっかけ〉づくりが最も大事ですね。――講座ではそういった心がまえも含めて教えていただきました。ところで今回は〈身体〉ということがテーマとなったのですが、最近の若者たちの身体への意識、また身体そのものの変化を感じますか。

関根：それは感じますね。80年代のはじめごろは、〈身体〉と〈心〉の結びつきに興味を持っている若者がたくさんいました。ざっと思いつものだけでも、呼吸法やヨガ、禅、太極拳、合気道、あるいは東洋医学などが。

今はそうじゃなくて、格好いいからやってる現代の踊りがほとんどになってしまった。たとえば武道でいえば、和光には以前、武道のサークルが6つあったけれど、今はひとつし



▲道着姿の左は湯浅心師範 右は関根秀樹先生・第二体育館

か残っていないんですよ。汗を流して地道にきちんと練習するってスタイルが流行らないのかなあ。その一方で、ヒップホップなんかのダンスはみんな本当に熱心にやっている。ただ、ああいう踊りかたをすると膝とか腰とかを痛めちゃうんですね。

—「いまの若者はうまく歩けない人が多い」という話をお聞きしましたが、その原因はどのようなところにあるのでしょうか。

関根：やっぱり、昔は通学で毎日2、3キロは子供たちに歩かせたし、トイレも和式だから、日常的にまんべんなく筋肉を使っていましたよね。いまは部活なんかでちょっと遅くなると、すぐに車で送り迎えをするようになったし、トイレも洋式だから、どんどん足腰は弱くなってきています。

電車に乗っているとお年寄りが自分は立って、子供に座らせてしまう、という光景を目にしますが、昔は子供には座らせませんでした。理由のひとつには、揺れる場所で立つことでバランス感覚が養われるからです。ほかにもいろいろな例があります。世界中を旅していると、日本人にはきりっとした顔の人が少なくなっているのを感じますね。

インタビューの終盤に〈旅〉というモチーフが出てきたのが、関根先生のふるまいとぴったりに思えて、印象的だった。あれこれ頭で考えても、自分の身体的な限界を正しく知ることとはできない。まずは身体を動かすことで、自分の〈護身力〉



▲全面的な協力をしてくれた和光大学空手道部の猛者たちと

を客観的にも主観的にも認識し、すべき行動を導き出してゆく。それが関根先生流「護身術」なのだ。なかばこじつけのようだが、旅をするのにも、行動力と思考力の両方が必要である。動くことではじめて思考できることがあり、思考はまたさらなる旅へといざなう……。

今回学ぶことができたのは、数えきれないほど〈旅〉をしてきた関根先生ならではの、身体も心もおろそかにしない「護身術」だった。

(関根秀樹：本学講師 インタビュー＝宮嶋隆輔：総合文化学科3年)

GF WORKSHOP

和光大生のための〈生活力〉育成プログラム

第2回和光流クッキング教室開催

野菜たっぷりのヘルシーメニューが受けました。

2010年12月15日、G棟1階のジェンダーフリースペース。いつもは静かなこの部屋にこの日ばかりは賑やかな声と鼻をくすぐる良い香りが漂いました。昨年に続き、第2回和光流クッキング教室の開催です。

今年のメニューは①豆腐ハンバーグ大根おろしときのこのソテー添え ②ミネストローネ ③ガーリックバターラ

イス ④スウィートポテトタルト。豪華でしょう？

豆腐やたっぷりの野菜を使ったヘルシーメニューが学生たちに受けました。野菜を切る手つきの危なっかしい人、ハンバーグをハート型にして楽しんでいる人、デザート飾りつけに初挑戦の人、皆さんそれぞれに頑張ってくれました。野菜の切り方も大小様ざま、チョップリ大きすぎた人参がなかなか煮えなくて時間がかかったミネストローネ。美しい仕上がりに思わずあちこちで携帯のシャッター音が鳴ったデザート。途中、電気のブレーカーが落ちたりのハプニングもありましたが……。

さて、試食タイム。この日初めて一緒になった参加者同士で和気あいあいと会話ははずみ、楽しげな声と笑顔があふれていました。人間、美味しい物を食べている時って本当に幸せなんですね。その上一緒に食べる仲間と楽しい会話ができれば言うことはありません。みんな自分たちの作品に味も量も満足していた様子です。

食べることは人間の基本的な営みです。おろそかにせず豊かな食事をしていれば、自然と心身ともにバランスのとれた人間形成につながると思います。これを機会に食生活を見直し、料理に興味をもつ人が増えてくれれば幸いです。

(安河内みどり・GFスタッフ)



▲スウィートポテト・タルトッ！

▲美味しいものを自分で作って食べるって幸せ～！ 満足ウ～！

▲豆腐ハンバーグ大根おろし添え

〈豆腐ハンバーグ〉

大根おろしときのこのソテー添え)4人分

〔材料〕

豚挽き肉…320g 塩・コショウ…少々
木綿豆腐…1丁 たまねぎ…1個
大根…5cmくらゐ 卵…1個
大葉…適宜
サラダ油…大さじ1杯半

- ①豆腐はキッチンペーパーに包み、レンジに入れて水気をとる。
- ②玉葱はみじん切りにして、しんなりするまで油で炒めておく。
- ③ボウルに肉、玉葱、豆腐、卵を入れ、塩、コショウを加えてよく混ぜる。
- ④丸く形を整える。フライパンで油を熱したところに入れ、焼き色がついたらひっくり返し、弱火でふたをして中まで火を通す。
- ⑤箸で刺してみて、赤い肉汁が出てこなければ出来上がり。
- ⑥皿に盛り、大根おろしと大葉の千切りをのせる。

*付け合わせ きのことソーテー

しいたけ、舞茸、エリンギなどを食べやすい大きさに切り、オリーブ油を熱したフライパンでしんなりするまで炒め、軽く塩、コショウする。

point

レモンやすだちなどをしほるとさわやかな味に。

〈ミネストローネ〉4人分

〔材料〕

玉葱…半分 トマトの水煮缶…1缶

ジャガイモ(中)…1ヶ ニンニク…1片

人参…半分 バセリ…少々

セロリ…半分 キャベツ…2枚

ズッキーニ…半分 塩・コショウ…少々

ベーコン…2枚 ロリエの葉…1枚

オリーブオイル…大さじ半分

パルメザンチーズ…少々

あればバジル、オレガノ少々

- ①ベーコンは1cmくらいの千切りに
- ②ニンニク、バセリはみじん切りに。
- ③それ以外の野菜は1cmの角切りに。
- ④鍋にオリーブオイル、ニンニクを入れ、香りが立ってきたら、ベーコン、野菜の順に炒める。
- ⑤しんなりしてきたら、トマト缶、ロリエの葉1枚と、材料がかぶるくらいの水を加えて煮る。

point

煮立ったら、バジル、オレガノなどを加えると本格的な味に。ショートパスタを入れてもいい。

- ⑥しばらく煮て材料が柔らかくなったら塩、コショウで味を整え、最後にオリーブオイルを少量入れて出来上がり。
- ⑦器に盛って、パルメザンチーズ、彩りにバセリを散らす。

〈ガーリック・バターライス〉4人分

〔材料〕

ご飯…茶碗4杯分

ニンニク…4片

バセリ…少々

粗びき黒コショウ…少々

塩…小さじ2杯

バター…大さじ4杯弱

粗びき黒コショウ…少々

- ①フライパンを火にかけ、弱火でじっくりバターを溶

かす。途中でニンニクを加え、弱火で香りが出てくるまで少し炒める。

point

この時にベーコンやキノコなどお好みの具材を入れても美味しい。

- ②①に塩を加えて溶かし、塩が溶けたらご飯に入れ、切るように混ぜる。
- ③黒コショウを降り、炊飯器のフタを閉め、少しご飯を蒸らす。味がなじんだら完成、器に盛り彩りにバセリを散らす。

〈簡単スイートポテト・タルト〉6個分

〔材料〕

さつまいも(小)…2個 バター…20g

生クリーム…大さじ2杯

砂糖…20g(今回はハチミツを使います)

バニラエッセンス…お好みで数滴

- ①さつまいもは皮をむき、厚さ1cmの輪切りにし、水にしぼくさす。
- ②耐熱皿に重ならないように並べてラップをし、電子レンジでやわらかくなるまで加熱し、熱いうちにつぶす。
- ③つぶしたさつまいもに生クリーム、砂糖、バターを加えてよく混ぜる。
- ④③をタルトに入れ、ホイップ、アーモンドで飾って出来上がり。

point

お手を皮付きのまま、水に濡らしたキッチンペーパー、ラップの順で包み、電子レンジで加熱してから皮をむいて潰してもOKです。

GENDER FORUM

“ジェンフリ”、そしてS君のこと

この1年間(2010年度)毎週のように、ゼミやサブゼミのためにジェンダーフリースペースを使わせていただいた。使い心地はきわめて快適。私もゼミ生もコーヒーを飲みながらソファで雑談し、ゼミが始まると机が四つ囲んであるところに移動して議論した。ふつうの研究室の倍はある広々とした空間で、のびのびとゼミやサブゼミを行うことができた。ありがとうございました。

「ジェンフリ」の室内にはジェンダー関係の資料が豊富にある。今年のゼミ生のなかにはジェンダー関連の卒論を書く人がいなかったが、もしいたらこれらの資料が役立ったはず。また、ファッション誌その他の、かなりの量の雑誌のコレクションがある。おそらくジェンダー研究のために集められたものだと思うが、時代の変化を窺うためにさまざまに使えようである。ぜひ、多くの人に活用してもらいたいものだと思う。

話は変わるが、昨年(2010年度)の春の卒業生で、性同一性障害をテーマにして卒論を書いたゼミ生がいた。F T MのS君である。「考えてみれば、今まで学んできたことはどれも当事者のことばかりであった。私も、当事者をめぐる諸問題を卒業論文のテーマにしようと考えていた。しかし、ここで私が思ったことは〈当事者の周りにいる人は、どのようなことに悩み、どのようなことを考えているのか〉と

いうことだった」(S君の卒論より)。

S君は、自分の元恋人、カミングアウト前からの友達、2人の姉、そして自分の母にインタビューをしている。「今まで聞けなかったことを思い切って聞いて、腹を割って話してみようと思う」と語っていたように、このインタビューそのものが互いの「関係」をふりかえり確かめながら新たに結び直していく、という趣きがあった。まわりの人達がさまざまに困惑したりしながらS君を受け入れていくプロセスがインタビューを通じてよく見えてきた。冷静にまとめられた論文だが、互いに対する想いが伝わってくる、胸を打つものだった。ゼミでは毎年2月に「卒論合宿」を行うが、昨年、S君の卒論をめぐってゼミ生がとても熱心に話し合っていたようすが思い出される。

和光大では、セクシュアル・マイノリティの人たちがごく自然にキャンパスを歩き、語り合っている。和光大生にとってごく普通のこの風景も、世間では決してあたりまえ



▲撮影：岡本はごろも君

のものではない。本拠地としてのジェンダーフリースペースがあり、ジェンダーフォーラムが活動している和光大ならではのことで、と思う。井上先生をはじめとする皆さんの努力によって、このような雰囲気が育まれてきたのだ。S君も和光大にこられたからこそ、自分自身とまわりの人との関係性についてしっかり考えることができたのだと思う。ジェンダーフォーラムの活動が着実に継続し発展していくことを、願っている。

(西 研・現代社会学科非常勤講師・社会哲学)

POSTSCRIPT

ジェンダーフリースペースに遊びにきませんか

ジェンダーフリースペースは、G棟1階の医務室の真向かいにあります。この部屋は、授業期間中の月曜から金曜までの毎日、昼12時—6時まで開いています。お母さん世代からお友だち世代まで、色々な人たちが日替わりでスタッフとして皆さんを待っています。気軽に話しかけると、喜んで応えてくれますよ。運がいいとお茶をいれてもらえたり、お菓子をご馳走になれるかもしれません。

ジェンダー関連の図書や雑誌、新聞、ビデオ、DVDなどの資料がおいてあり、誰でも利用できます。わずかながら、コミックもおいてあります。授業のレポートや卒論を書くために、または単なる教養や楽しみのために、ぜひ見に来てください。

好評です!

ジェンダーフォーラム制作のDVD
《和光大学ジェンダー・アーカイブス》

no.1

『世界的ジャーナリスト 松井やよりと私たち』

no.2

『ワークショップ・デートバイオレンスを考える』

いずれも無料配布中(送料のみいただきます)。

お問い合わせ先：和光大学ジェンダーフォーラム

tel：044-989-7777-4112

メール：gen-free@wako.ac.jp

毎週水曜日は、お茶を飲みながら、お弁当を食べながら、おしゃべりするジェンダーカフェを開いています。ジェンダー関連の授業を担当する先生方も来るので、聞きたいことや相談したいことなどにもきっと答えてもらえます。教室とはちがいの、リラックスした雰囲気で、話ができます。

ジェンダーフォーラムでは、2011年度に、新しい担当教員やスタッフを迎えて色々な企画を進めていきます。定番の護身術の講座やクッキング教室、図書館梅根記念室での展示のほか、たとえばプレイバックシアターによる即興劇や、湘南DVサポートセンターによるデートDVのワークショップなどを企画中です。また、ジェンダー関連の卒論指導会も計画中です。ジェンダー・スタディーズ・プログラムに登録している人も登録していない人も、ぜひイベント情報をお見逃しなく。イベントに参加すると、新しい世界が開けること、請合いです。

このほか、みなさんからの企画も歓迎です。ぜひ、アイデアを寄せてください。

2010年度 ジェンダーフォーラムの活動

4月 「GF通信 15号」発行

—エッセイ「GFSの蔵書の魅力」道場親信

4月28日 〈ジェンダー・カフェ〉オープン

6月2日 口演「山下さんちの物語—ジェンダーからの出発」

講師：宝井琴桜

—講談は初めてだったけど面白かったとの声多数

6月16日 ワークショップ「女性のための護身法セミナー」

講師：森山奈央美・三宅りお（インパクト東京）

7月14日 ワークショップ「戦争と女性を考える」

講師：出口雅子（ピナツボ復興むさしのネット）

10月 「GF通信 16号」発行

10月5日 講演「〈自然〉出産の持続可能性」

講師：きくちさかえ（マタニティ・コーディネーター）

10月22日・29日・11月26日・12月3日・10日

ワークショップ「女子学生のための護身術講座 全5回」

指導：関根秀樹・湯浅 心

10月26日 講演「育児休業制度とは」

講師：野城尚代（東洋大学社会学部講師）

11月24日—12月3日 第8回企画展示

「女性学の挑戦—〈女らしさ〉の神話を超えて」

・現代社会学科と共催

12月3日 講演「ローン・クレジットを利用する際の留意点」

講師：渡邊俊之（全国銀行協会企画部広報室長）

・経済学科専門科目「貨幣金融論B」と共催

12月14日 ワークショップ

「日本経済のこれからと私たちの暮らし・おカネ」

・経済学科徳永潤二ゼミ・加藤巖ゼミと共催

講演「人生設計と資金計画—金融リテラシーの必要性」

講師：松田 岳（東京富士大学）

12月15日 「第2回和光流クッキング」指導：GFS スタッフ

2011年3月 「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」の

履修者2名に履修証明書を発行